

### 経産副大臣退任 高木陽介氏に聞く

# 支援外れた人に光を



フォローしきれない人がいる。その人たちに次はどのよじに光を当てるか考えてきた。後任の武藤容治氏にもその思いを引き継いでほしい。私も役職は外れたが、月に1度は福島に足を運び、復興の状況を確認しながら、福島のために尽力したい」

「福島第2原発の存廃についての考えは。」

「賠償や廃炉の問題など東電が担う問題もあるが、早期の決断が必要だ。(第2原発の廃炉は)東電の不信感やマイナスの部分全て払拭できない中で、東電が県民を向いているという姿勢を見せる節目になることは間違いない」

経産副大臣を退任した高木陽介氏(公明、衆院比例東京)は10日、福島民友新聞社を訪れ、政府の原子力災害現地対策本部長として被災市町村の避難指示解除などを担当した職務を振り返った。

「2年11カ月の在任中、本県に関わるさまざまな課題を担当した。」

「避難指示解除のよう行政はどこかで線を引かねばならない。帰還に賛成の人もいれば反対もある。ただ行政で線を引いたときに

フォローしきれない人がいる。その人たちに次はどのよじに光を当てるか考えてきた。後任の武藤容治氏にもその思いを引き継いでほしい。私も役職は外れたが、月に1度は福島に足を運び、復興の状況を確認しながら、福島のために尽力したい」

「地下水位を巡る問題など県民が東電に不信感を募らせる事態が続いている。「東電の新役員には自身の生き方の中に福島県を位置付けてほしい。在任中260日間公務で福島に入っ

たが、それでも分からないことが多かった。(放射性トリチウムを含む水の処分を巡る川村隆会長の発言についても)風評被害は何なのか、福島漁業者を思い浮かべれば言葉を選ぶことができる。新執行部には心して福島に通ってもらいたい」